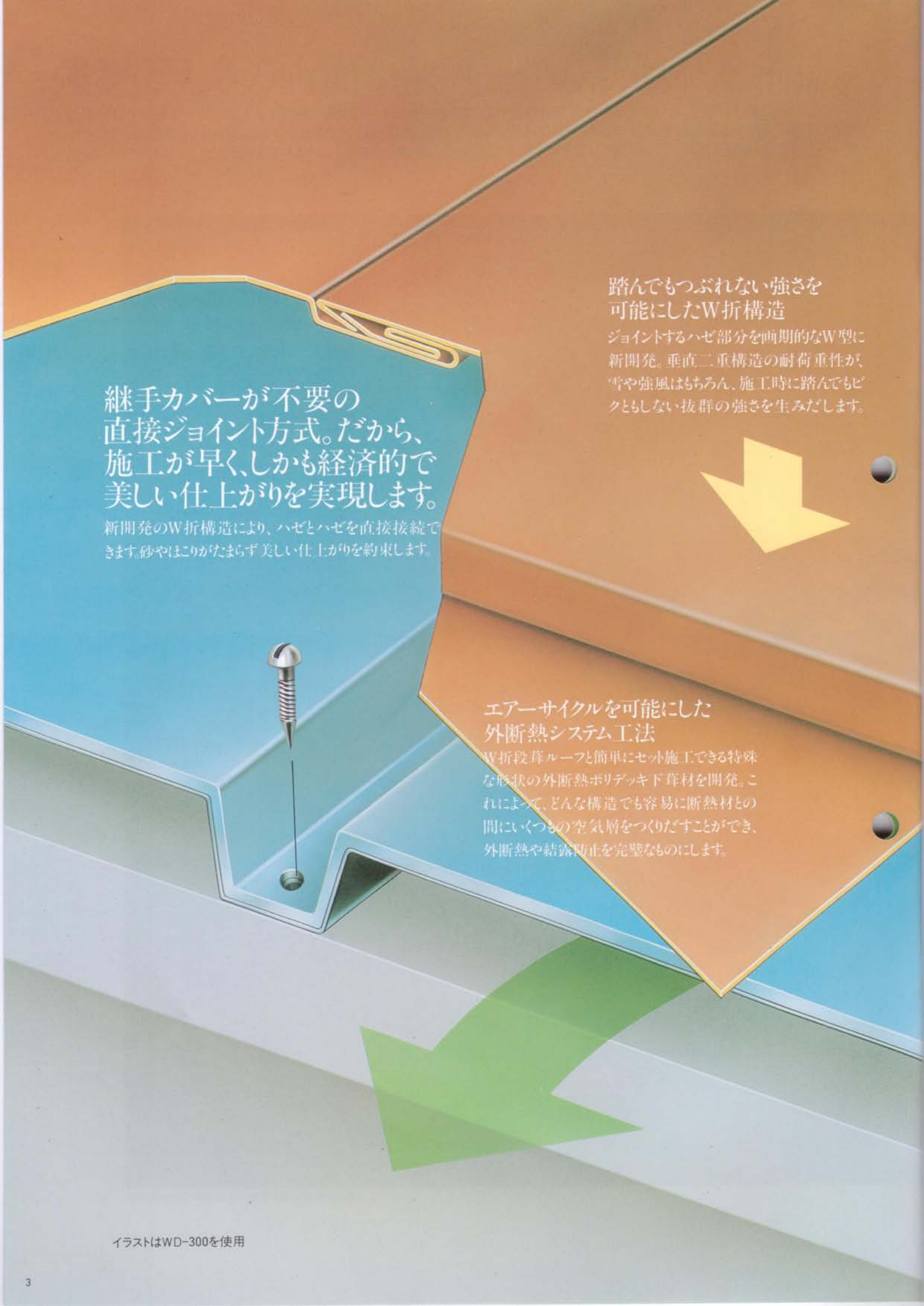


# Doichi Roof

ダブル

# W折段葺



継手カバーが不要の  
直接ジョイント方式。だから、  
施工が早く、しかも経済的で  
美しい仕上がりを実現します。

新開発のW折構造により、ハゼとハゼを直接接続で  
きます。砂やほこりがたまず美しい仕上がりを約束します。

踏んでもつぶれない強さを  
可能にしたW折構造

ジョイントするハゼ部分を画期的なW型に  
新開発。垂直二重構造の耐荷重性が、  
雪や強風はもちろん、施工時に踏んでもピ  
クともしない抜群の強さを生みだします。

エアサイクルを可能にした  
外断熱システム工法

W折段葺ルーフと簡単にセット施工できる特殊  
な形状の外断熱ポリデッキ下葺材を開発。こ  
れによって、どんな構造でも容易に断熱材との  
間にいくつもの空気層をつくりだすことができ、  
外断熱や結露防止を完璧なものにします。



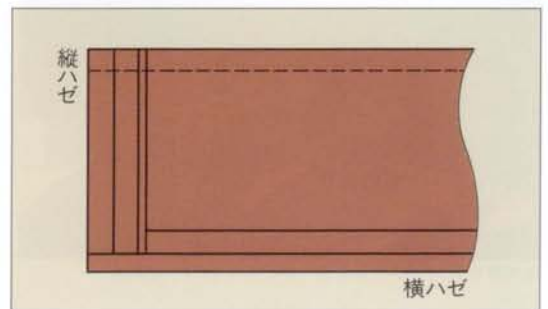
# 第1の特徴は 耐荷重・耐漏水を実現 した独創の<sup>ダブル</sup>W折構造。



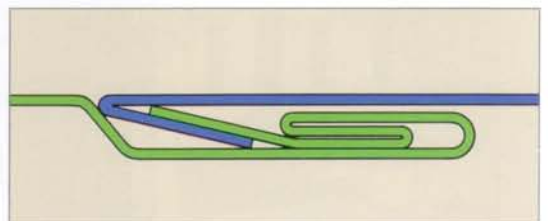
ドーチのW折段葺ルーフの最大の特徴は、独自の研究と開発によりジョイントする二辺のハ

ゼ部分をW型に整形・加工していることです。しかも、最も荷重を支える垂直辺を二重にすることで強化。これまで、施工時の悩みのタネだった作業員の踏みつけによる損傷の心配を解消しました。また、W折の形状の利点を活かし、密閉された四つの空気層をつくりだすことに成功。毛細管現象で生じる雨水の浸入や外気の流入を完全に防ぐなど、数多くのメリットがあります。

# 第2の特徴は ダイレクト・ジョイント工法 を可能にした、 2辺W折構造の採用。



従来の屋根材のジョイントが継手ステ板や継手カバーによって行われていたのに対し、ドーチW折段葺ルーフは本体と本体の直接ジョイント方式。W折構造になっているハゼと、もう一方のルーフのハゼを噛み合わせるだけで簡単に接続することができます。



従って、継手ステ板や継手カバーの経費が不要になり、作業効率も大幅にアップ。そのうえ、継ぎ目が固定されるためはずれにくく、砂やホコリなどの目づまりを防ぐことに併せて、くっきりとした継ぎ目ラインによる美しい仕上りを約束します。 **特許出願済**

2層の空気ゾーンが  
雨水をシャットアウト。

W折構造の実現で、外気を遮断する2つの空気の密室を構成。建築物の最大の敵である毛細管現象による雨水の浸入を完全に封じます。



# 大型建造物から、個人住居まで ドーイチのW折段葺は 豊かな建築を演出します。



真岡市中村南小学校 W折段葺300着色亜鉛鉄板(つや消)



安蘇郡田沼町富士浅間宮 W折段葺200銅板



茂木町立逆川小学校体育館 W折段葺300フッ素鋼板

真岡市体育館兼柔剣道場 W折段葺300銅板



壬生町立壬生北小学校給食棟 W折段葺300フッ素鋼板







小山市立乙女中学校体育館 W折段葺300着色亜鉛鉄板(つや消)

国分寺中学校体育館 W折段葺200銅板



壬生町雄琴神社 W折段葺200銅板



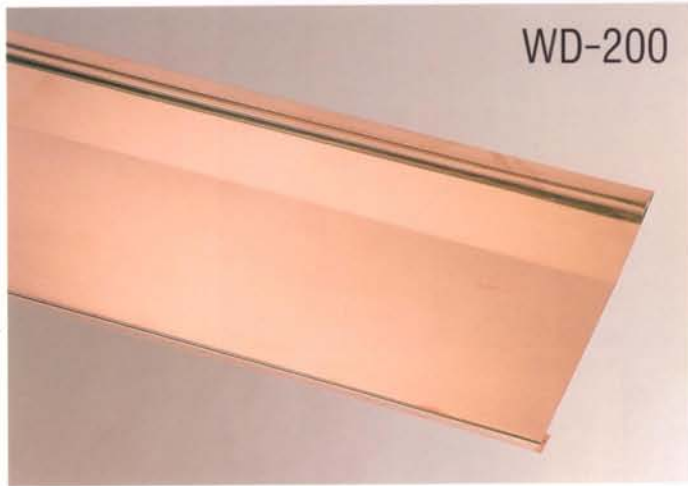
理容ヤナギ W折段葺200銅板



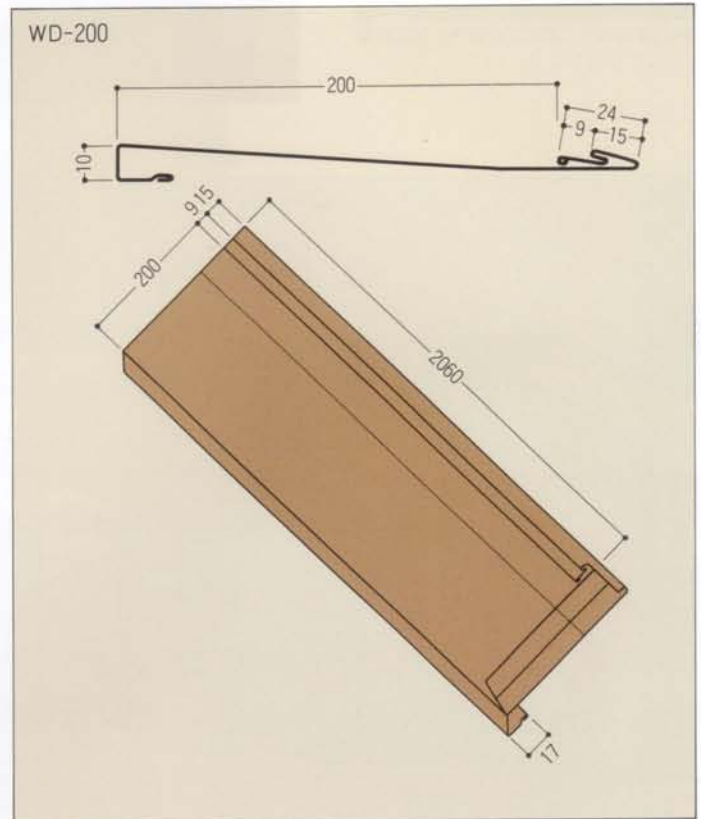
栃木県立小山西高等学校生活指導室 W折段葺300アクリルガルバリウム鋼板

# 材質や仕上げも多種多彩。だから、用途に応じて自在な選択が可能。

ドイツのW折段葺ルーフは、銅板からカラーアルミ、カラーステンレスまで9種類の素材をラインナップ。加えて、板厚や有効幅、有効長さなどバリエーションも豊富なので、建築物の規模や構造、予算に応じて、自由自在に選ぶことができます。

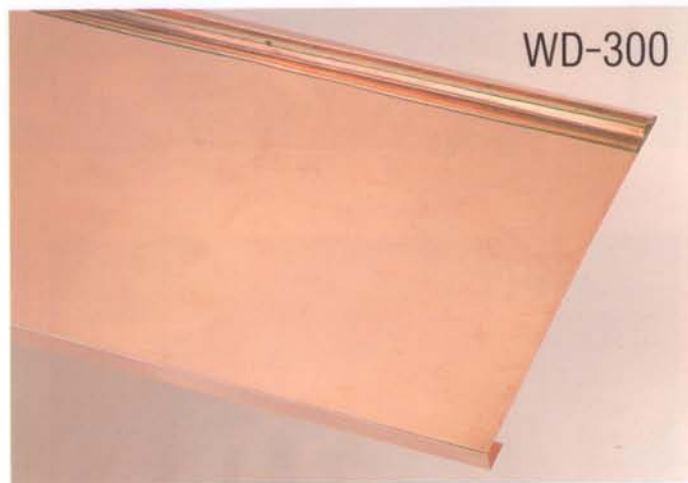


WD-200

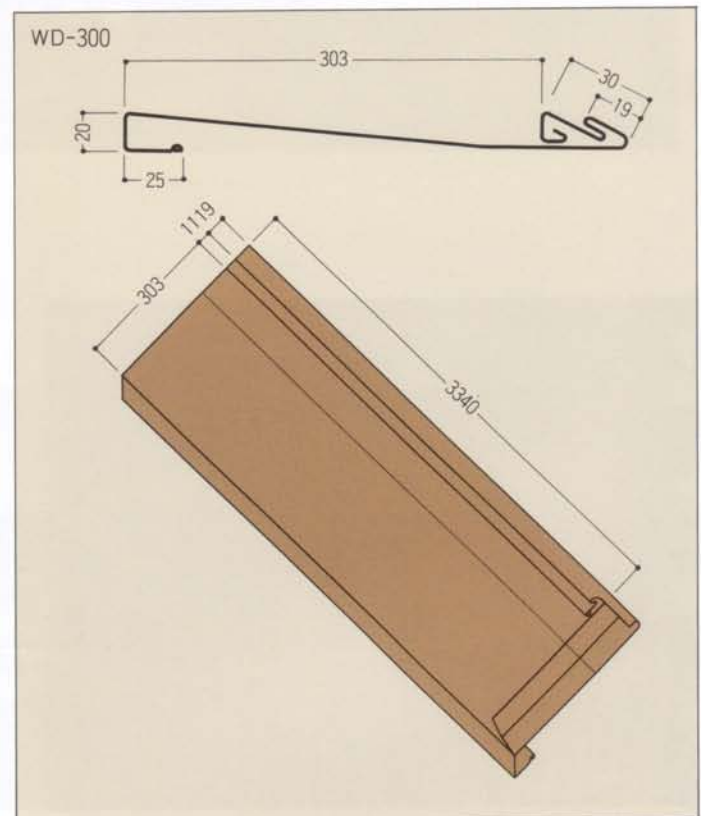


使用材	板厚	有効巾	有効長さ
カラーアルミ	0.5	200mm	2,060mm
フッ素アルミ	0.5	200mm	2,060mm
銅板	0.35~0.5	200mm	2,060mm
銅パーソフテン	0.3~0.5	200mm	2,060mm
カラーソフテン	0.3~0.5	200mm	2,060mm
フッ素鋼板	0.4~0.5	200mm	2,060mm
アルスター	0.4~0.5	200mm	2,060mm
カラーDX10	0.4~0.5	200mm	2,060mm
カラー鉄板	0.4~0.5	200mm	2,060mm

※断熱材裏張り可能。



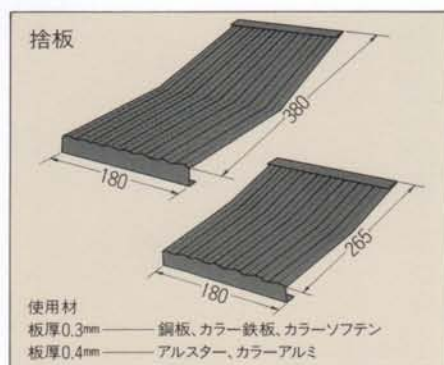
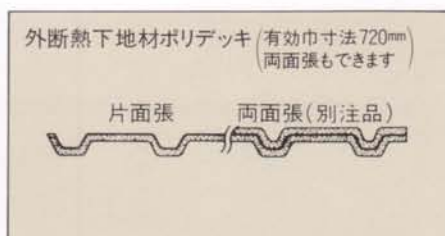
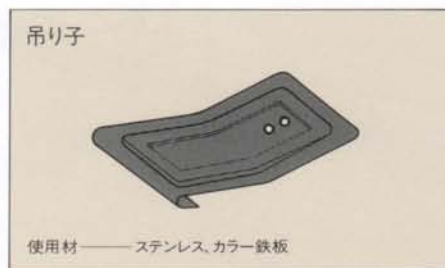
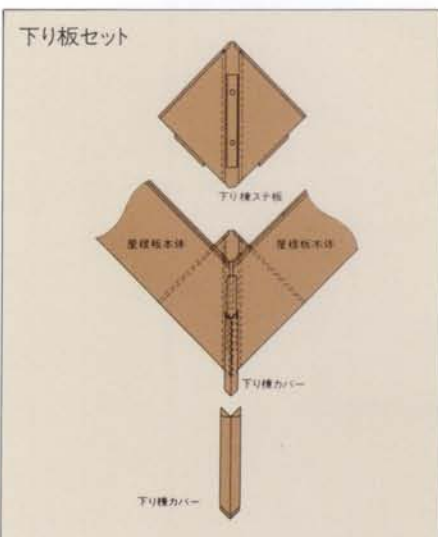
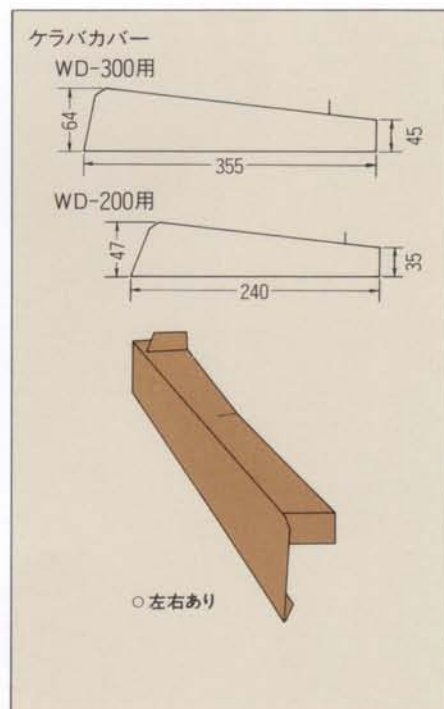
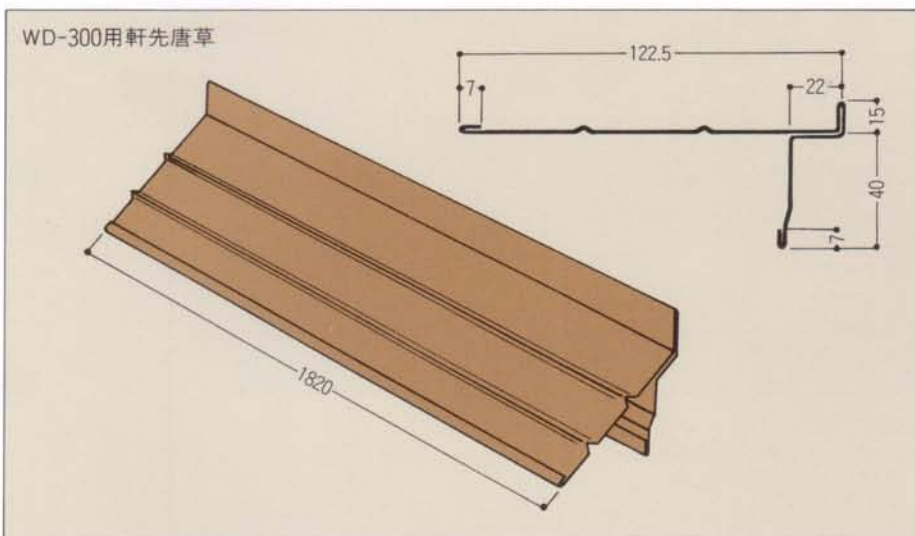
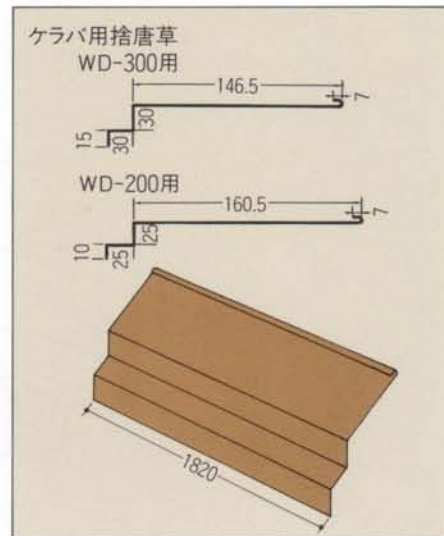
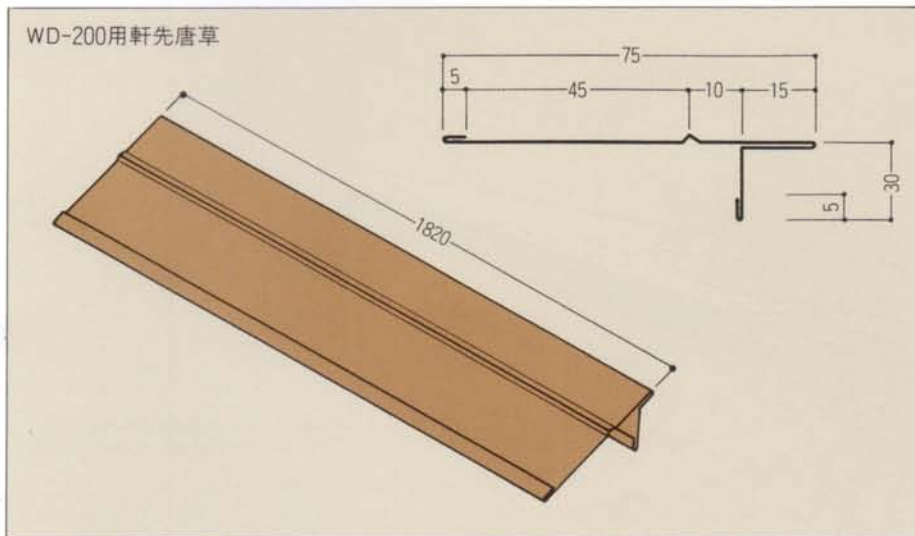
WD-300



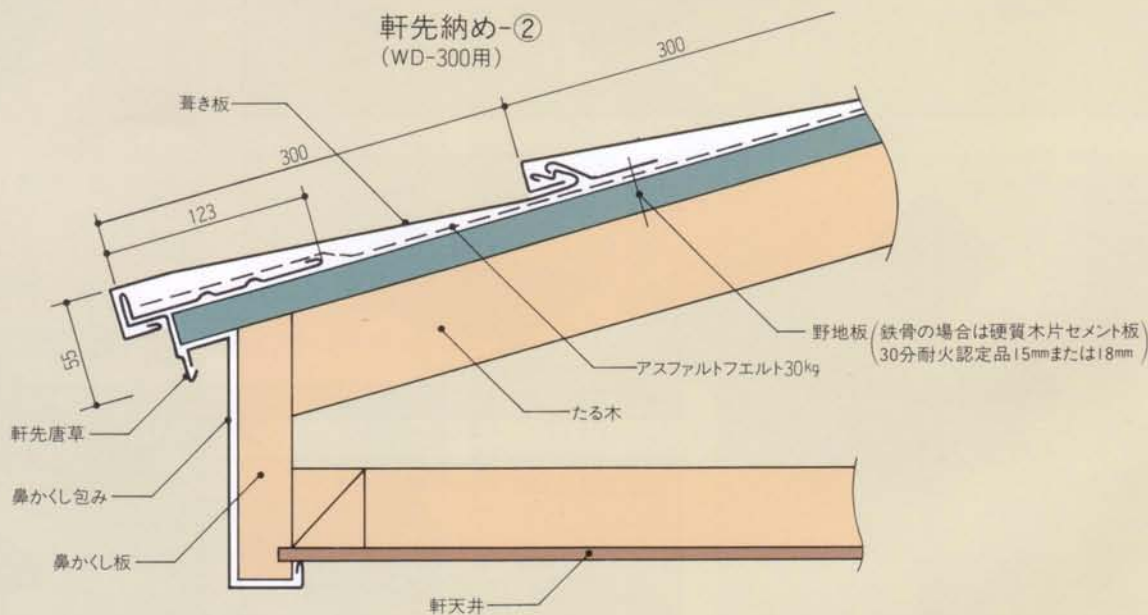
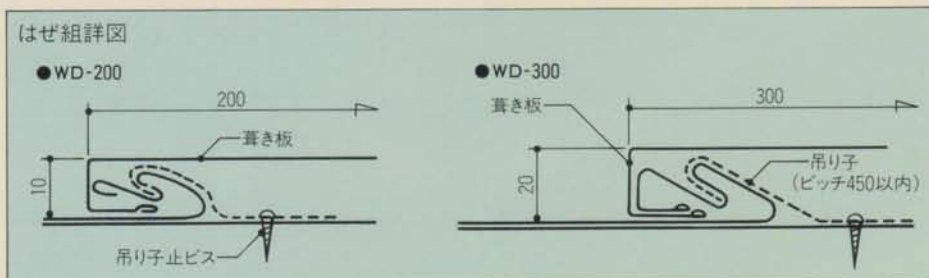
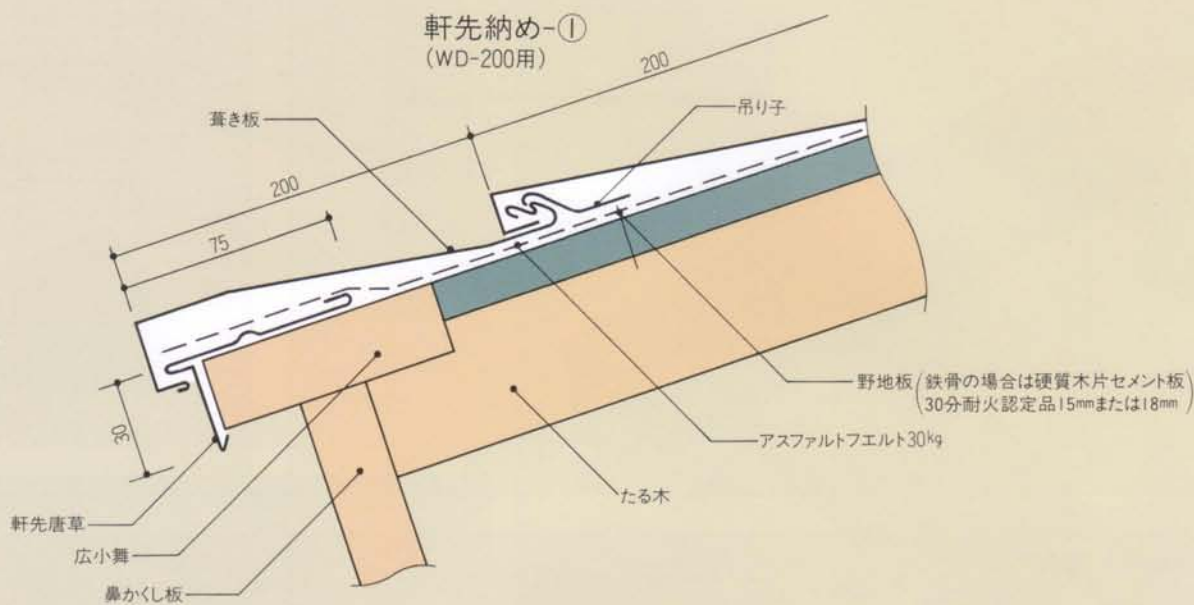
使用材	板厚	有効巾	有効長さ
カラーアルミ	0.6	303mm	3,340mm
フッ素アルミ	0.6	303mm	3,340mm
銅板	0.4~0.6	303mm	3,340mm
銅パーソフテン	0.4~0.6	303mm	3,340mm
カラーソフテン	0.4~0.6	303mm	3,340mm
フッ素鋼板	0.4~0.6	303mm	3,340mm
アルスター	0.4~0.6	303mm	3,340mm
カラーDX10	0.4~0.6	303mm	3,340mm
カラー鉄板	0.4~0.6	303mm	3,340mm

※断熱材裏張り可能。





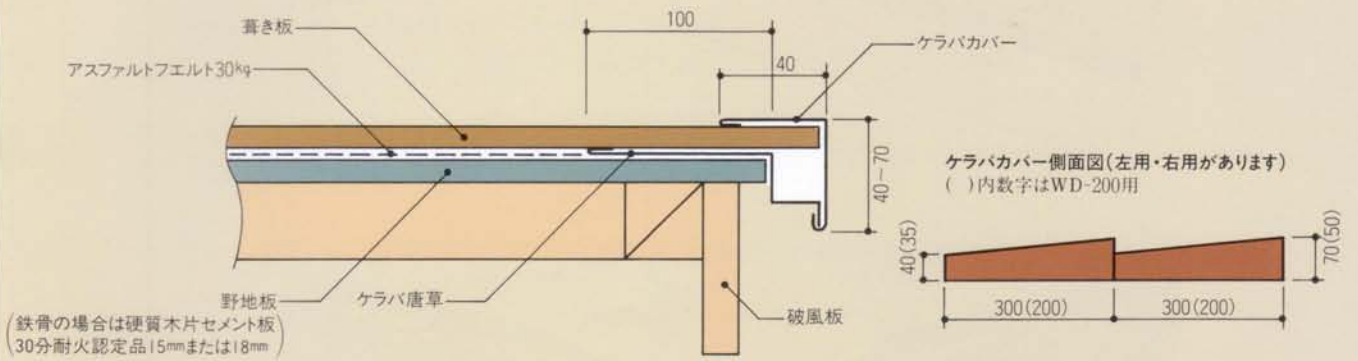
# 木造下地・鉄骨下地共通納め図



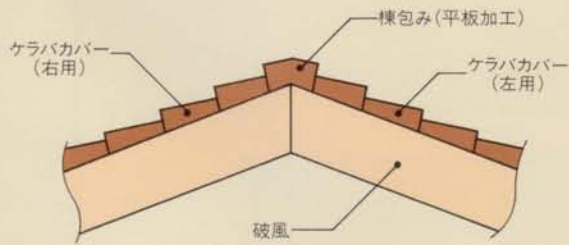
※鉄筋軽量モルタル厚さ40mm上に地下付加能。



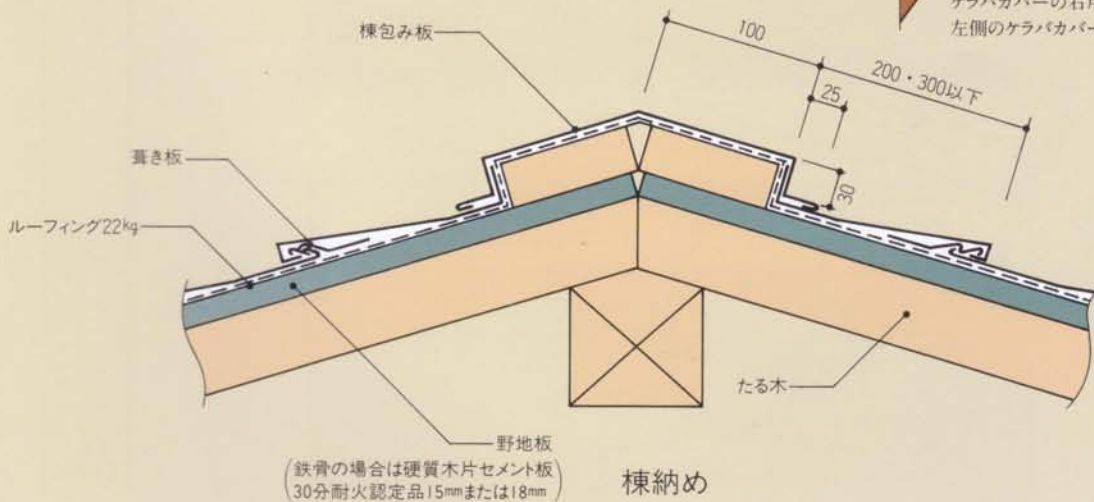
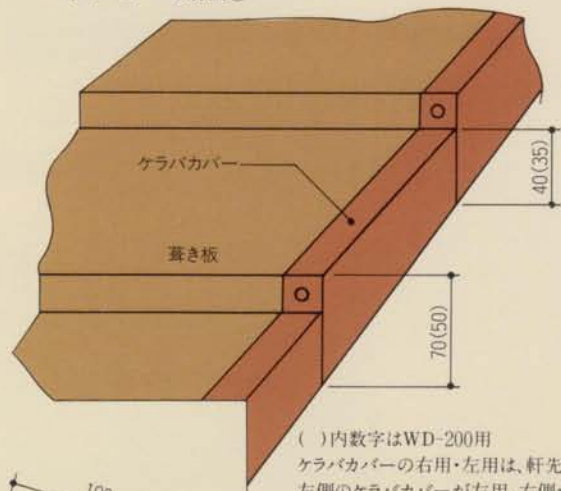
## ケラバ納め



ケラバカバー取付図①



ケラバカバー取付図②



※鉄筋軽量モルタル厚さ40mm上に地下付加能。

# 正確でスピーディーな作業を 約束する、7つの施工ポイント。

## 1.

### 屋根勾配は $\frac{3}{10}$ より。

W折段葺は、加工を必要としない定尺工法を実現。従来煩雑だった加工手間を省くことができます。

## 2.

### 吊り子の固定は充分に。

W折段葺は、葺板本体を吊り子で野地板など下地材に止め付けします。取付けピッチは400～450mmぐらいが安全で理想的です。

## 3.

### 下地材の種類と厚さ。

下地材は、吊り子を止め付ける釘を充分保持する厚さと材質が必要です。構造用合板(日本農林規格1類又は特類)か、安全耐水合板(ア)12㎜～(ア)15㎜、硬質木片セメント板(ア)18㎜が最適です。

## 4.

### 葺板、吊り子の厚さ。

葺板、吊り子は通常0.35㎜～0.8㎜厚が適当。また、吊り子の止め間隔は400～450㎜位が最適です。

## 5.

### 釘の種類。

銅板には銅釘が適していますが、硬質木片セメント板などの硬い板材にはステンレス釘を使用してください。また、普通合板の場合は、銅ラセン釘25㎜、硬質木片セメント板などにはステンレスビス19㎜が理想的です。

## 6.

### 風圧について。

軒先やケラバ、棟、下り棟付近は、吹き上げ、吹き下ろしなど強い風をまともに受ける場所です。風圧の直撃を受けてもビクともしないよう、特に入念な施工を行ってください。

## 7.

### コンクリート造りの屋根。

コンクリート面にタルキや母屋を下地にして野地下を貼り、銅板などを葺く方法は結露を生じやすく、木部を腐朽させる恐れがあります。軽量骨材と川砂を用いた特殊軽量モルタルを、厚さ40㎜ぐらいコンクリート面に施工すれば、屋根下地に吊り子を釘打ちすることができ、止め付け耐力も申し分ない仕上がりになります。

